

## (専門分野)

授業科目	地域・在宅看護論演習	講師	教員	実務経験	単位数
				○	1
学習目標	1.在宅の対象者への日常生活援助と対象の機能の維持・向上に向けた支援を理解する。 2.在宅看護の展開方法を習得する。			時間数	第2学期
				30	
				学年	
				2	
				時期	
回数	主 題	学習内容		授業方法	講師
1～2	在宅における身体機能の維持向上に向けた援助	1.在宅での生活を希望する健康障害のある対象の看護 1)身体機能の評価 (1)家庭で行うリハビリテーション		講義 演習	教員
3～7	在宅における生活支援の方法	1.在宅での生活を希望する健康障害のある対象の日常生活の援助 1)清潔に関する在宅看護 2)食生活・嚥下に関する在宅看護 3)移動・移乗に関する在宅看護 4)呼吸に関する在宅看護 5)介護用品の活用		講義 演習	教員
8～9		1.在宅での生活を希望する健康障害のある対象の日常生活の援助 1)排泄に関する在宅看護 (1)摘便		演習	教員
10～14	事例による看護過程の展開	1.医療管理を必要とする難病(筋萎縮性側索硬化症)の療養者の看護 1)情報収集の視点 2)医療処置 3)介護者への支援 4)多職種との連携 5)社会保障制度 (1)社会資源の活用		講義	教員
15	評価	単位認定試験 (45分) まとめ			
評価方法	筆記試験 50点 課題 50点	テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]地域・在宅看護の基礎 地域・在宅看護論[2]地域・在宅看護の実践		